

第4章 学校教育ICTビジョンの基本的な考え方

第1節 基本的な考え方（めざす子ども像など）

- ・ 急速な情報化が進展し、複雑化した社会においては、新たな問題の発見・解決に取り組んでいく力の育成が必要となります。そのためには、子どもたちには、他者と協働しながら思考を深め、新たな価値を生み出していく力や、情報や情報手段を選択し活用していくために必要な情報活用能力も必要となります。
- ・ 本市では、全ての児童生徒の可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びを実現するため、デジタルの有用性を鑑み、これまでの実践とICTを最適に組み合わせることにより、教育の質の向上をめざします。
- ・ ICT機器を活用しながら知識の理解の質をさらに高めるために、1人1台の学習者用端末等を効果的に活用することにより、協働学習や個別学習の充実を図り、主体的に学び、自らの考えを伝えるときにも、他者の考えを理解し、多様な人々と協働して問題を解決しようとする子どもの育成をめざします。
- ・ また、日常的に子どもたちがICTを主体的に活用し、多様な情報を選択・活用しながら情報活用能力を高め、主体的な学びを通じて育成される資質・能力を、円滑な学びの継続・保障につなげていきます。
- ・ あわせて、いつでも、どこでも主体的に学べる環境を整備し、デジタルドリルなどの活用により、自主学習習慣及び家庭学習習慣の定着を図っていきます。

○めざす子ども像

ICT機器を活用しながら知識の理解の質をさらに高めるために、学習者用端末等を効果的に活用することにより、協働学習や個別学習の充実を図り、主体的に学び、自らの考えを伝えるときにも、他者の考えを理解し、多様な人々と協働して問題を解決しようとする子ども

○身につけさせたい力

- ◆膨大な情報から何が重要かを主体的に判断し、自ら問題を発見し解決する力。
- ◆他者と協働しながら思考を深め、新たな価値を生み出していく力。
- ◆情報や情報手段を選択し活用していくために必要な情報活用能力。
- ◆相手を意識し、自分の考えをわかりやすく表現する力。
- ◆世界の人と繋がり、情報の共有ができる力。

- ・ また、ICT活用の特性・強みとしては、① 多様で大量の情報を収集・整理・分析・まとめ・表現することができること、② 距離に関わりなく相互に情報の発信・受信のやりとりができること（双方向性を有すること）、③ 時間や空間を問わず、音声・画像・データ等を蓄積・送受信できること（時間を問わずに児童生徒の思考過程や結果を可視化できること）といった主に3つに整理されます。
- ・ この特徴・強みにより、①については問題発見・解決のプロセスにおける学習（情報活用能力の育成）において、文書の編集やプレゼンテーション、調べ学習などを、②については、遠隔授業・オンライン教育を、③については個別学習の充実・学習履歴（スタディログ）の蓄積、学びの可視化を可能とし、その特性・強みを生かした授業や家庭学習が行われることが期待されています。

（参考：「2020年代に向けた教育の情報化に関する懇談会」最終まとめ）

第2節 ICTを活用した学びの基本方針

- ・ 上記のことを実現していくために、今後本市全体で取り組むべき教育ICTの活用方策や環境整備について、次の4つの基本方針に整理しました。

○基本方針1 問題発見・解決のプロセスにおけるICT活用

- ①情報活用能力の育成
- ②ICTを効果的に活用した学習の充実

○基本方針2 個別最適な学びにおけるICT活用

- ③デジタル教材等による個に応じた学習の充実
- ④校務系データと学習系データの連携・学びの可視化
- ⑤遠隔・オンライン教育の推進

○基本方針3 安全・安心な教育環境の実現に向けたICT活用

- ⑥学校生活状況等の可視化
- ⑦いじめアンケートと相談申告のオンライン化

○基本方針4 学びを支えるICT環境の整備

- ⑧ネットワーク基盤の安定的な稼働
- ⑨学習者用端末等の整備
- ⑩効果的な学習用ツール・先進技術の導入
- ⑪ICT機器活用における支援体制の構築

- ・ これまでの拠点校における実践モデルや、国の実証事業の成果を全校へ展開しつつ、問題発見・解決のプロセスにおけるICT活用や、個別最適な学び及び安全・安心な教育環境の実現に向けたICTの効果的な活用方策に合わせ、ICT環境を整備していくことが必要です。
- ・ GIGAスクール構想により配備した1人1台の端末は、クラウドの活用を前提としたものであるため、必要なセキュリティ対策を講じ、クラウドの活用を進めていきます。
- ・ また、教育DX（デジタルトランスフォーメーション）に取り組み、1人1台端末を活用した一人一人の学習履歴や学習行動記録等の教育ビッグデータを集積し、児童生徒ごと、学級ごと、学校ごとに、データの変化を可視化し、これを専門的見地から分析することで、教育の成果と課題が見える化し、効果的な指導方法や学習行動等の知見を得て、学習指導や学校支援に活かしていきます。

（図表7 ICTを効果的に活用した方策の導入イメージ）

